



第7回戦略会議レポート

2018/11/21 湯沢町役場



オブザーバーは、長井・飯豊・白鷹・南陽から15名、多摩から18名、福井から1名、新潟テレビ21が取材が入りました。

清水先生ご退任について

長らく雪国観光圏のアドバイザーにてご支援いただきました清水先生が今月末を持って公の事業から手を引かれると連絡がありました。大変お世話になりました。アドバイザーに関しては、今後検討していきます。

議題②事業計画に基づく進捗状況

■サクラクオリテイ参画状況(奥田MG)

・SQは訪日外国人が安心して宿泊施設を選んでもらい、満足度を高めるもので海外に向かって発信していく。2018年の調査施設は調査済が14、未調査は清津館、シエラ、坂戸城。新潟県でも広がっており観光協会から依頼を受けて鶴の浜温泉、長岡の泉屋を調査。観光圏のノウハウを共有していく。

■A級グルメ 制度変更があり、案内を強化する。

■日本A級グルメの進捗について(岩佐氏)

全国5市町で、にっぽんA級グルメのまち連合発足。A級グルメは雪国観光圏が定義を作り始めたが、西日本を中心に広がりつつある。

〇〇A級グルメ(地域名)で連携していく。にっぽんA級グルメのまち連合には雪国観光圏は入っていないが民間団体オブザーバーとして加盟したいと話している。連合は5市町村から増やす予定はなく、「加盟した時からファイブスター、にっぽんA級グルメ」として5段階評価制度を取り入れている。雪国は5段階評価なので合わせるか検討中。雪国でも、地域名〇〇A級グルメというロゴを作り、名刺等でPRするのもよい。



雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

議題① 各WGから 進捗報告

■雪国文化研究WG:細矢MG

石造物に焦点をあてインバウンド向けの冊子を作る。第5回WGは構成がメインで写真の撮り方・配置などを決めた。英訳部分も話し合い、中世の石仏についてフォーマットに従い外国人にささる表現を行う。

■食ブランドWG:岩佐座長

第2回魚沼食の学校はローカルガストロノミーとインバウンド戦略をテーマに昨日里山十帖にて開催。今回から圏内500円、圏外3000円だが参加者60名超。南魚沼の将来を示唆する内容でポテンシャルを感じた。寺田氏の話ではガストロノミーは海外では国家戦略で動いておりオーストラリアではレストランオーストラリアという取組がある。次回食の学校は3月、5月(料理通信君島氏:ローカルガストロノミーと各地域の戦略)、7月料理マスターズ事務局の高橋氏:地方と東京の食の最先端)を伺う。

■観光協会連携推進WG:魚沼市観光協会星事務局長

次回WGは12月13日に開催予定。

■スノーカントリートレイルWG:仲丸氏

市町村から話を聞いて、イベントやキャンペーン等現状の事務局体制で来年度に結び付けたい。

■女性コーディネイター研究会:細矢MG

南魚沼市から新しく1名参加。「お客様と接する職員につながる場を作ろう」と3年前に繋がった。行政区域を越えて集まれるのは観光圏ならではの女性ならではの気づきや知恵を共有しお客様の要望を察知し提案できる人材育成につなげたい。来年はWGとして活動したく雪と旅にコラム枠を頂きたい。→雪と旅のコラムは可能(滝沢MG)

■ブランドWG:フジノ氏

新潟県国民文化祭があり雪国観光圏がこの地域のコーディネイトを担う。来年は食文化から、雪国文化にシフト。

【スノーカントリートレイルについて】

井口代表理事: 田中氏は日本を代表する方だが手弁当でお願いしており、事務局と予算など課題がある。
→事務局 仲丸氏: オープンまでに最低限の道標の設置と地図を作った。自分なりにできる作業で地図のWEB公開を行ったが印刷物にしたり、キャンペーンをやるときは事務局が必要。人(事務局)と予算が必要。
→2020年に信越トレイルが苗場山まで延長する予定でコース作りなどを検討中。
→魚沼にもコースがありどう活用するか。知恵を出し合いながらやっていく。



SNOW COUNTRY TRAIL

≪まとめ≫井口: 事務局が脆弱なので役割分担を担いながら一緒に盛り上げていきたい。活用がテーマでモニターツアーや旅行商品の造成など、観光だけでなく農林などの関係部局にもお話し頂ければ有難い。

【雪国A級グルメの普及について】

井口: 事業費がなく告知方法が難しい。一部だけで盛り上がっているという誤解もあり地域内で浸透していない。ローカルガストロノミーも注目、意識の高い事業者が集まるA級グルメは核になってくるが実益に落とし込めていない。
→新制度に期待している。基準が決まったら協会加盟の事業者にお知らせをする。
→エリア内の旅館や飲食店にご指導いただいたが、職員に知識が足りないため観光協会にも指導をお願いします。
→食はランクがつくようで難しいと思うので、しっかりした基準を。
→施設の目標も大事だが加盟店と利用者、情報発信者の目線をあわせる運用の統一と根合わせを。
→企業も自社提供の品質向上に向けたモチベーションにはなるし、インバウンドでも化学調味料を使わないことなどいい取り組みだと思う。告知が弱い。支店での勉強会なども可能で取引先に個別にあたることも可能なので相談を。
→取引業者に事業説明会をして、A級グルメの話をしたが味噌やお酒や農家などA級グルメに参加したいという声も聴いた。取引している旅館から話をしてもらえばA級グルメをやるといふ農家が出てくるかもしれない。
→生産者への基準が難しく生産者を星印でつけるのが難しい。生産者は賛助会員にするか。

≪まとめ≫井口: 岩佐さん中心にルール設定を行いわかりやすい資料を作り、行政や第四銀行から後押しを頂いて進めたい。あと60社ほどが目標なので、全体の動きを見ながらしかけていく。



【インバウンド向け2次交通の整備について】

* シャトルバス の話題から最終電車延伸の話まで活発な話し合いが行われた。
12月29日～3月10日までの62日間、松之山温泉へのシャトルバス運行を行い、オフ期の2次交通の改善を図る。
→湯沢に入っているインバウンドの方を他のエリアに運ぶにはどうしたらいいか相談し振興局の予算をつけてやっていく。十日町には、ちんころ市(5・10・15日)や着物の文化やアートがある。パーホッピングもよいが終電時間などネックもある。足代を負担するとイベントになり恒常的でないので模索中。大地の芸術祭で海外のお客様も増え飲食店もインバウンドの対応ができていく所もありこれを契機にして呼び込みたい。
→六日町商工会が以前から検討。終バスを十日町六日町経由できれば、振興局で今年間に合わせるのは可能か。
→ほくほく線に相談していてペイすれば電車動かすのも可能。最終電車の湯沢までの延伸方法を考えれば。
→バルチケットは1月10日～2月。湯沢からほくほく線・上越線使って、外国人に食事に来てもらう。交付金で英語メニュー、キャッシュレス、通常電車利用で検討中。

≪まとめ≫井口: 居酒屋体験してみたい外国人が多いが冬期は湯沢の飲食店がいっぱいになり、夕食難民がでる。公共交通を使い六日町や十日町で食事してもらえればと思うが、電車は終電が石打着で2次交通が課題となる。各市町村首長、北越急行・JRIに、地域の共通認識としてアナウンス頂けると良いかと思う。

その他、報告事項

- ロシアエージェント視察報告
- 一橋大学魚沼市視察報告
- 雪国観光圏DMOセミナーのご案内
- 第7回信越県境地域づくり交流会

■ 地域おこし協力隊卒業 奥田MG

アラブ・ムスリム対応ができる宿をやっていきたい。スーパー民宿事業やSQ事業をインバウンド受け入れをしたい民宿にも広げていきたい。A級グルメにも宗教的対応でプレイヤーとして広められるようになりたいと考えている。大変お世話になりました。



連絡先: 一般社団法人雪国観光圏事務局
新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢2431-1
TEL025-785-5353 FAX025-785-6767